

1 学校教育目標

- 学び合う人
- 思いやる人
- 鍛え合う人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学校との円滑な接続を目指し、9年間を見通した積極的な連携事業を進める学校。 ・学力の向上と生徒一人一人の良さを伸ばす学校。 ・礼節を重んじ、規範意識が高められる学校。 ・保護者や地域との連携した教育活動を推し進める信頼された学校。
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見つけ、自ら考えて積極的に学習する生徒。 ・お互いのよさを認め合い、誰とでも助け合う心の優しい生徒。 ・明るく素直で、健康な生徒。 ・目標に向かってチャレンジする生徒。
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の手本となり自分自身を高め、学ぶ楽しさを教える教師。 ・誠実な心と正義感をもって生徒と向き合い、豊かな心や強さ、温かさを伝える教師。 ・保護者や地域とのかかわりを大切にし、協力を惜しまない教師。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

落ち着いた学習環境の中で、「生きる力」（知・徳・体バランスのとれた力）の育成を心がけ学校経営をすることができた。

生徒は全体的に明るく、人懐こく、真面目に学校生活に取り組み、生徒会活動をはじめ、委員会や当番活動にも前向きに取り組んでいる。

教師は仕事熱心で、主幹教諭を核として組織的に教育活動を展開している。日々、授業改善に取り組み学習面での成果を上げようと努力している。

保護者、地域ともに学校に対する思いが熱く、生徒達の健全育成のため、学校支援に力を注いでくれている。

〈成果〉

- ・令和5年度足立区学力調査の通過率は71.3%で達成目標70%を超えることができた。朝学習や補充教室が生徒の学習意欲の向上や基礎学力の定着に結び付いている。小中連携における研究授業の取り組みを通し、分かりやすい授業の実践、足立スタンダードの定着、言語活動にポイントを置いて指導案検討・研究授業を実施し、学習指導の研究を深めることができた。
- ・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価は1回目が90.3%、2回目が91.3%と高い水準で評価されている。AIドリルやタブレット等ICTを活用した授業を実践する教員が増え、よりわかりやすい授業にするための授業改善が行われている。
- ・今年度から取り組んでいる読書活動の充実では、年3回の読書キャンペーンの実施、月1回の図書コラボ給食、保健委員会と図書委員会のコラボ企画による図書の紹介など、学校全体として読書活動への啓発に努めることができた。

〈課題〉

- ・全体として落ち着いた環境の中で学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いものの、一部学習意欲に欠け学力の定着に課題がある生徒がいる。

- ・自己肯定感が低い生徒の割合が比較的多く、主体的に学習に取り組むことのできる生徒の割合が比較的少なく、課題となっている。
- ・不登校傾向の生徒へのきめ細かい指導と保護者・関係機関との連携をさらに推し進め、不登校の改善を図る。
- ・生徒が主体的にものごとに取り組む姿勢や規範意識の育成、基本的生活習慣、学習習慣をしっかりと身につけさせる。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	小中連携の推進	○	○	○	○	○
3	「生きる力」の育成と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の向上を図るとともに、主体的に学びに向かう意欲の向上を図る。		全体 74% 国 73% 数 75% 英 73% 年度末1・2年 全体正答率 60%		全体 71.7% 国 71.3% 数 71.4% 英 72.5% 年度末1・2年 全体正答率 61.4%		全体の通過率は目標値を下回ったものの昨年度よりは若干向上した。また、調査の結果を踏まえた授業改善、補充の取り組みの成果が年度末の正答率向上につながっている		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1	基礎学力の向上	全学年 5教科	通年 朝学習 補充学 習 サマ ー ス ク ー ル	始業前15分の朝学習 放課後補充教室(抽出) サマースクール 中1勉強合宿(通所型)	各コンテスト 区調査再テスト	正答率30%未満の生徒を全体の10%以下にする。 対象生徒の80%が正答率を上昇させる。	正答率30%未満 9月14.8% 1月6.7% 対象生徒の75.3%が正答率上昇	正答率30%未満の生徒は1月には目標値を達成している。対象生徒の正答率上昇には課題が残る。	○

2	「主体的に学びに向かう力」「社会に生かせる学び」の育成に向けた授業改善	全学年 全教科	通年	校内研修（年1人1回の授業研究）を基本とする授業改善	生徒アンケート「授業によって興味・関心がわき、自ら学びたいと感じますか」「学校で学んだことが実生活に生かされ、将来の夢や目標を考えるきっかけとなっているか」	肯定的な評価を80%以上にする。	「授業によって興味・関心がわき、自ら学びたいと感じますか」84.8% 「学校で学んだことが実生活に生かされ、将来の夢や目標を考えるきっかけとなっているか」86.9%	年間1人1回以上の研究授業、各教科での授業改善の取り組みが成果として表れている。	◎
3	読書活動の充実	全学年	通年	朝の時間を利用して全校で読書活動の時間を設ける。 年3回の読書キャンペーン 昼休みの図書館開放	生徒アンケート 図書館年間貸出冊数	月に2冊以上本を読む生徒の割合45%以上 図書館年間貸し出し冊数6500冊	4月区調査時33.5% 12月生活アンケート時24.3%(1冊以上が40.4%) 年間貸出冊数6175冊	読書キャンペーンやコラボ給食など読書活動の啓発に努めたが目標数値に達しなかった。	△
4	キャリア教育の充実	全学年	通年	ゲストティーチャーによる経済同友会によるキャリア教育（1年） 留学生との交流（2年） 職場訪問（1年） 職場体験（2年）	生徒アンケート「学校で学んだことが実生活に生かされ、将来の夢や目標を考えるきっかけとなっているか」	肯定的な評価を80%以上にする。	「学校で学んだことが実生活に生かされ、将来の夢や目標を考えるきっかけとなっているか」86.9%	3年間を通じての系統的なキャリア教育が功を奏し生徒の成長につながった。	◎

重点的な取組事項－2		小中連携の推進		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・連携をとおした教員の指導力の向上 ・生徒の学力定着に向けた連携の実施 ・小中連携による中1ギャップ解消	「指導力の向上」に対する教職員の肯定的な評価と「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を90%以上にする。	「授業が分かりやすい」93.6%	小中連携を通し教員の授業改善の意欲が高まり効果がでた。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○連携を通じた指導力の向上と、主体的に学ぶ学習意欲の向上	生徒アンケート「授業によって興味・関心がわき、自ら学びたいと感じますか」の肯定的評価 90%以上	連携校各校 1 回の指導案検討と研究授業	「授業によって興味・関心がわき、自ら学びたいと感じますか」 84.8%	連携校各校の 1 回の指導案検討・研究授業が授業力向上につながった。今後より生徒が主体的な学びに向かうことが課題である。	○
○連携を通じた中 1 ギャップの解消	・連携校から本校へ入学を希望する生徒数の割合の増加。	部活動体験 6 年生の中学校訪問 中学校教員による 6 年生を対象とした体験授業	部活動見学週間 10 月 15 日(火)～10 月 19 日(土) 6 年生の中学校訪問 1 月 1 7 日 体験授業は未実施	本校の取組が評価され本校を選択する生徒が多くなった。しかし、学区内では私立中学へ進路を決める児童が多いのも現状である。	○

重点的な取組事項－ 3		「生きる力」の育成と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習環境の中で「生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）」の育成 ・あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着と感性を磨く学習環境の整備。 ・「いじめ 0」、「不登校 0」を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な生活習慣の定着、生徒の安定した学習状況、いじめや暴力のない学校づくり」などの項目について、あてはまる、ややあてはまるの合計を 85%以上とする。「本校の教育に満足している」の合計を 90%以上にする。 	「本校の教育に満足している」 87.9%	日常から授業を大切に落ち着いた学校生活を送ることを主眼に生活指導を行っている効果が表れている。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>○落ち着いた学習環境と「生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）」の育成</p>	<p>・保護者アンケートの「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」「学校は集団生活の基本的なことをしっかり指導している」「本校の教育に満足している」について、あてはまる・ややあてはまるの合計を90%以上にする。</p>	<p>・全教育活動を通して、マナー、モラル、ルール遵守の必要性、重要性を生徒に考えさせる ・各学年、各分掌が一体となり組織的に生活指導に対処していく。 ・学芸発表会、合唱コンクールでの生徒の主体的活動 ・ガイドラインを遵守した部活動運営 ・命の安全教育、性教育 ・昼休みの設定（図書館開放）</p>	<p>「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」87.9% 「学校は集団生活の基本的なことをしっかり指導している」90.7% 「本校の教育に満足している」87.9%</p>	<p>落ち着いた学習環境が保たれている中で、学校行事においては生徒が主体的に活動し成果を上げることができた。また「命の安全教育」「性教育」など学校全体で取り組むことができた。</p>	<p>○</p>
<p>○あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着と感性を磨く学習環境の整備。</p>	<p>・保護者アンケート「生徒の態度や服装はきちんとしている」「生徒はあいさつや言葉遣いなどの礼儀を身につけている」の項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を90%に近づける。</p>	<p>・学校の教育活動全体、保護者や地域との連携であいさつ運動を展開していく。 ・教室や各階の展示物、掲示物の工夫を行い感性が磨かれる学習環境や生活環境を作っていく。 ・経済同友会から講師を招聘してキャリア教育を実施する。 ・留学生によるゲストティーチャー授業の実施。</p>	<p>「生徒の態度や服装はきちんとしている」95.7% 「生徒はあいさつや言葉遣いなどの礼儀を身につけている」85.1%</p>	<p>組織的な生活指導、生徒会主体のあいさつ運動、美術作品の校内展示、鑑賞教室の実施などの取組を通し生活習慣の定着と生徒の感性を高めることが図られた。</p>	<p>◎</p>
<p>○「いじめ0」と「不登校0」を目指す</p>	<p>・保護者等の外部評価において、「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」という項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を90%以上にする。</p>	<p>いじめ防止基本方針に基づき、いじめ予防と解消を図る。 ・年3回のいじめ調査をはじめ諸調査を基に、SC、特別支援教育コーディネーターを中心に各学年集団、生徒個人の指導の共通理解を図り、指導を深めていく。 ・WebQUの結果を活用し、生徒の人間関係に留意することや、個々の生徒の学習状況や生活状況をきめ細かく把握することで不登校の未然防止に努める。</p>	<p>「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」86.7%</p>	<p>ふれあい月間、生徒へのアンケートの実施、日常からの生徒の見守り等、組織的にきめこまかい取り組みができています。保護者への理解をたかめること、より主体的に生徒がいじめ防止に行動できるようにすることに課題が残った。</p>	<p>○</p>

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

生徒は明るく、まじめに学校生活に取り組んでいる。落ち着いた授業を実施する中で学力の定着が図れているとともに、「生きる力」(知・徳・体バランスのとれた力)の育成を心がけ学校経営をすることができた。またキャリア教育、学校行事や生徒会活動・当番活動には、主体的に取り組む生徒が多くこれらの経験の中で成長をしている。

教職員は仕事熱心で、主幹教諭を核として組織的に教育活動を展開している。日々、授業改善に取り組み学習面での成果を上げようと努力している。保護者、地域ともに学校に対する思いが熱く、生徒達の健全育成のため、学校支援に力を注いでくれている。

〈今年度の成果〉

- ・令和6年度足立区学力調査の通過率は71.7%で昨年度より微増した。
- ・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価は1回目が93.1%、2回目が93.6%、「授業で学んだことが日常生活に生かされたと感じているか。」で肯定的評価は1回目が81.7%、2回目が86.6%と高い水準で評価されている。
- ・不登校生徒の出現率が昨年度より1.4%減少し、新規不登校生徒の発生も昨年度より16名減少した。

〈今年度の課題〉

- ・全体として落ち着いた環境の中で学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いものの、一部学習意欲に欠け学力の定着に課題がある生徒がいる。
- ・昨年度から取り組んでいる読書活動の充実では、年3回の読書キャンペーンの実施、月1回の図書コラボ給食、保健委員会と図書委員会のコラボ企画による図書の紹介など、学校全体として読書活動への啓発に努めているが、月2冊以上読書をする生徒の割合が12月のアンケートで24.3%(1冊以上が40.4%)と低い数値となっている。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校では(1)に記したように落ち着いた中で授業が実施でき、生徒は明るくまじめに学校生活を送っている。どの授業においても授業規律がたもたれ、集中して授業を受けている生徒が多く、その結果が区学力調査やアンケート等の結果に表れている。また、昨年度までは主体的に学習に取り組む姿勢は不十分な生徒が多くいたが、今年度は授業改善等の効果も表れ生徒自身の学習に取り組む姿勢が向上している。読書活動に関しては課題が残ったため、各ご家庭においても生徒が読書に向かえる環境づくりに心がけていただくとありがたい。

(3) その他(学校教育活動全般について)

学芸発表会、合唱コンクール、芸術鑑賞教室(今年度は弦楽合奏とソプラノ独唱)、美術科作品の日常的な展示等、生徒の感性を高める取組の充実を図ることができた。また、命の安全教育、性教育、人権教育等を計画的に実施することにより、生徒が将来に向けよりよく生きていくための教育の充実が図れた。